第2510地区　第11グループ　2006～2007

The Weekly Report of Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

2006～07年度
国際ロータリーのテーマ

率先しよう

LEAD THE WAY

2006～07年度
国際ロータリー会長

ウィリアム B. ボイド

柴崎　晃 会長テーマ　―― 今、出来る事から始めよう ――

10月4日卓話　武田　功 氏

《第2077回例会》　第 14 号　10月11日(水)

本日のプログラム

移動例会「函館湾流域下水道事務組合 下水道処理場」

★会　長　柴崎　晃　★幹　事　山下清司

例会場：函館国際ホテル　〒040-0064 函館市大手町5－10　TEL23-5151
例会日：毎週水曜日　12:30～13:30　事務局：函館市大手町5-10 ニチロビル4F　TEL23-3870

70年の伝統・実績・信用を誇る
火災共済　山敷火災相互会
会長　増田定雄
〒040-0062　函館市大縄町１１番２９号
TEL(0138)41－1730　FAX(0138)40－6406

（広告掲載：増田　定雄 会員）

函館北ロータリークラブのホームページアドレス　http://www.hakodate-north.org/

◎9月20日出席報告

会員	３２名	出席率対象会員	３１名
		出席規定免除会員	１名
		出席率規定免除会員	０名
当日出席	２５名	当日欠席	７名
他クラブ出席	３名	出席合計	２８名
出席率		９０.３２％	

・テレフォンサービス（例会移動案内）電話26－3170番

次回・10月18日 プログラム	夜間例会 第３回クラブアッセンブリー 「地区大会報告」

2006～2007〈第2076回例会〉第 13 号

10月4日の記録

◎司　　会　柴崎　　晃 会長　　**◎斉　　唱**　我等の生業、四つのテスト

◎ゲ ス ト　海上自衛隊函館基地隊司令一等海佐　武田　　功 氏

★誕生祝　藤田会員(23日)
★結婚祝　渡部会員(5日)、森　会員(9日)、高田会員(10日)、小笠原会員(11日)、増田会員(13日)、藤田会員・佐々木会員(26日)

◎会長報告　柴崎　　晃 会長
○特にありません。

◎委員会報告
●社会奉仕委員会　森　　秀樹 副委員長
皆様のご協力のお陰で無事函館ハーフマラソン大会のお手伝いをすることができました。ありがとうございます。

◎幹事報告　山下　清司 幹事
○既にご案内いたしましたが、１８日の例会は夜間例会に変更いたします。
○本日第２・四半期会費案内を致しましたので、今月中にお払い込み下さい。
○地区大会に参加されます会員に懇親会並びにホテルのご案内を致しましたので宜しくお願い致します。
○友好クラブであります台北東北R.C.創立２５周年式典参加についてのご返信をお願いします。
○国際ロータリー世界大会が２００７年６月にアメリカ・ソルトレークシティで開催されますが、登録用紙が届きましたので参加ご希望の会員は事務局まで。
○函館東R.C.１０日自主休会・１７日移動例会、函館セントラルR.C.１０日夜間例会に変更です。例会終了後、理事会を開催いたします。

◎親睦活動委員会　弗田　和則 副委員長
ニコニコＢＯＸ投入報告
柴崎　会長……ロータリーを楽しく。
山下　幹事……月始めです。
新　　会員……　〃
小笠原会員……　〃
薮下　会員……　〃
成田　会員……　〃
森　　会員……結婚月です。
泉　　会員……月始めです。
増田　会員……　〃
弗田　会員……　〃
紫前　会員……ハーフマラソン大会のご協力ありがとうございました。
茂木　会員……月始めです。
深瀬　会員……月始めです。今月もよろしくお願いします。

◎卓話「国際情勢と日本の防衛について」　海上自衛隊函館基地隊司令 一等海佐　武田　功 氏

◆第二次世界大戦後の国際情勢

早いもので戦後６１年目を迎えたが、この間に世界では約１００回の武力紛争が生起しており、そのうち約３０件はアジアで発生し、中国はその中の９件に関わっている。軍事にせよ経済にせよ大国といわれている国で戦後６１年の間、紛争当事国になっていないのは我が国だけである。世界的にみても、これほど長期にわたって平和が続いている国は極めて珍しい。

孫子は軍事を論じて「彼を知り己を知れば百戦して殆うからず」、また「百戦百勝は善の善なるものに非ず」とも、そして最良の策は「戦わずして勝つ」と説いている。相手に付け入る隙を与えないことが大切である。この意味で、精強な自衛隊の存在と、強固な日米同盟が今日まで日本に平和をもたらしたといえる。

◆国際貢献の必要性

大雑把なデータであるが、我が国は外国から年間約８億トンの原材料とか食料、エネルギー資源などを輸入し、それを年間約１億トンの製品に加工して輸出し、世界第２位のＧＤＰを有する貿易立国である。したがって我が国ほど世界平和を希求する国はないのであって、日本だけよければよいとか、何事も金で解決するといった姿勢は通じない。我が国の繁栄は、「①原材料を売ってくれる国があり、②製品を買ってくれる国があるだけでなく、③原材料及び製品を輸送するルートが安全で、④国内が安定し、付加価値を付けるだけの高い技術力と勤勉な労働力があること」、この４条件が必須であることから、我が国と係わり合う国及び地域に対しては、応分の負担と貢献が必要なのである。

◆邦人救出等について

自衛隊でなくとも民間で貢献できることがあるのではないかといわれるが、危険を伴う状況下では困難である。例えば、旅客機は安全のために各種の支援システムを使って離着陸、運航しているが、民間機は航法支援措置がダウンしたり、滑走路の一部が破壊されたような場所で安全に離着陸できるだろうか。

イラン・イラク戦争中の昭和６０年(1985年)、フセイン大統領はイランの首都テヘランを爆撃し、３月１７日には、４８時間以降、イラン領空を飛行する民間機も撃墜の対象にすると発表した。各国の航空会社は自国民の救出に向かうが、日本の航空会社は「そんな危険なところにパイロットを送れるか」といって政府の救援要請を断った。タイムリミットの直前にトルコが航空機を派遣してくれたので２１５名の邦人は救出されたが、何故我が国が見捨てた邦人をトルコは特別便を派遣してまで救出してくれたのかとの問いに、搭乗員は「昔お世話になりましたから。」と答えたそうである。それは１８９０年、明治天皇に謁見して帰国の途にあったオスマン・トルコの親善訪日使節団乗艦の「エルトゥールル号」が、時化のため和歌山県串本町の大島の沖で座礁沈没し、殉職者５８７名という大惨事に遡る。漁民の決死の救出作業により６９名が救助され、明治天皇は生存者を軍艦でトルコに送還した。トルコでは長年教科書にも記述されていたそうであるが、この不幸な出来事が日本とトルコの親善を深めることとなり、９５年後にテヘランの日本人救出につながったのである。

現在、政府専用機２機は航空自衛隊が運用しており、今後、外国において邦人救出の事態が生起しても、自衛隊が活動できれば邦人を見捨てるようなことは考えられない。

（会報担当者：増山　正 委員）